

文学部 社会学科（3つのポリシー）

教育の理念

社会学科は、尊厳と公正を重んじ、現代社会の諸現象に対して観察眼を有し、問題発見と課題設定、調査と分析の能力を体得し、幅広い教養と専門的知識、技術を自らの社会的実践に活かせる、現代社会の多様性と変化に対応できる人材を育成する。

その理念・目的を達成するために、社会学専攻と社会福祉学専攻を置き、「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行う。それにより、十分な基礎力・実践力と倫理観を身につけ、変化する社会に対応し主体的に行動できる力を備え、さらには、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与する人材を育成することを教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部社会学科は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。両専攻の方針は以下のとおりである。

社会学科社会学専攻は、幅広い領域からなる全学共通科目、社会学の専門的な講義科目、演習・実習科目の履修、卒業論文・卒業レポートの作成によって、建学の理念を実践する力、幅広い教養と専門知識、課題解決力と表現力、多様な他者を尊重し協働する力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（社会学）の学位を授与する。

社会学科社会福祉学専攻は、福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための基本的で幅広い知識と専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応できる社会人・職業人を育成することを目的とし、以上に述べた事項を達成するために必要な科目を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）を授与する。

（DP1） 建学の理念を実践する力〔主体性、多様性、協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文・社会科学領域の基礎的知識を積極的に修得し、社会における諸課題を発見する能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2） 幅広い教養と専門知識〔知識、技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び社会学や社会福祉学における専門知識や研究方法、調査にかかわる技能・技術を体系的に身につけている。

（DP3） 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を

行った上で、主体的に問題設定を行い（現行生かし）、社会学や社会福祉学の専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。

また、文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な人文・社会科学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会科学は、社会学専攻、社会福祉学専攻ともに、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築くとともに、専門教育科目では専門性を高める。全学共通科目と専門教育科目の履修により、学生が多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように教育課程を編成する。

両専攻では以下の点を重視してカリキュラムを体系化している。

<社会学専攻>

- ① 人間と社会を把握する力を育成する
- ② 社会の実態を調査する力を育成する
- ③ 問題を発見し、解決する力を育成する

<社会福祉学専攻>

- ① 社会福祉学の基礎知識の獲得を目指すための理論教育
- ② 社会福祉実践の基礎となる方法論教育
- ③ 社会福祉の援助技術の獲得に向けた演習・実習科目（学外の配属実習を含む）
- ④ 主体的な課題発見能力と問題解決能力を獲得させるための少人数による演習科目とゼミ論・卒業論文の執筆
- ⑤ 将来の職業選択を踏まえたキャリア関連科目、等を体系的に配置

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

なお、教育の方法としてはアクティブ・ラーニングやeラーニングの活用、少人数専門演習・実習による手厚い指導などが特徴である。詳細については、各専攻の記述を参照されたい。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎	高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。	
		キャリア教育科目	○		○	◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎	○	○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目	○	◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	実習科目		○	◎	◎	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。	
	演習科目		◎	◎	◎	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	
	卒業論文・卒業研究・資格試験など		○	◎	◎	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会科学部は、駒澤大学及び文学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 社会科学部が求める学生像

（AP1） 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学の建学の理念を理解し、社会や福祉の専門領域に関心を持ち、社会科学部で学んだ知識・経験を社会に出てから活用したいという意欲をもっている。

（AP2） 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校までの教育内容を幅広く修得し、「自ら学ぶ力」を身につけているとともに情報リテラシーを体得している。社会学専攻では特に「国語総合」、「英語」の基礎的な学力を身につけている。

（AP3） 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

現代社会に対して強い問題意識を持ち、社会をより良くしていきたいという願いと意欲を持っている。また、現代社会の諸現象、問題について、様々な情報に基づき、自ら考察を行い、その結果をわかりやすく説明する基本的な能力を身につけている。

（AP4） 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

多様な文化・価値観の相違を認識し、社会倫理・福祉倫理を理解し、他者を尊重し、主体的に協働していく能力や意欲を身につけている。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

社会科学部には2つの専攻がある。それぞれ入学前に修得することが望ましい教科や取り組むべき学習習慣については、以下のとおりである。

<社会学専攻>

- ・高等学校で学修する教科・科目を幅広く修得する。特に、英語を中心とした外国語4技能の運用能力や国語の基礎能力を身につける
- ・評論などに触れて読解力を高めるとともに文章を書く機会を増やし、論理的な文章の読み書きに努める
- ・国内外のニュースに関心をもって新聞や書籍から情報収集し、社会的事象の背後にある社会構造にも関心をもつ
- ・社会的なテーマについての課題発見・分析に努めるほか、視野を広げて多様な文化・価値観を尊重する姿勢を身につける
- ・社会貢献、社会参加活動に積極的に参加し、多様な他者と協働して目標を達成、もしくは課題解決に取り組み、自身の考えを発表する機会をもつ

<社会福祉学専攻>

- ・社会に対する理解を深めるために、ニュース番組の視聴や新聞を読む習慣を身につけておく

- ・読書習慣を身につけ、常に問題意識を持つことや、論理的思考を磨いておく
- ・支援活動や社会的活動（ボランティア活動）に主体的・積極的に参加し、その成果や感想をまとめ発表しておく
- ・高齢者、障害者、子ども、外国人など、多様な人々との交流を深めておく

文学部 社会学科 社会学専攻（3つのポリシー）

教育の理念

社会学専攻は、現代社会の諸問題に対して観察眼を有し、問題発見と課題設定の能力を体得し、幅広い教養と社会学の専門的知識、技術を社会的実践に活かせる人材を育成する。

複雑で多様な現代社会への理解を深めるために、幅広い講義科目とフィールドワークに基づき現実社会を体験する少人数制の演習、実習科目によって、「幅広く応用のきく知識と技能を身につける教育」「懇切丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、グローバル社会・共生社会に対応できる高い人間力、問題解決能力、多様な経験を踏まえ主体的に行動できる力を備え、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与する人材を育成することを教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

幅広い領域からなる全学共通科目、社会学の専門的な講義科目、演習・実習科目の履修、卒業論文・卒業レポートの作成によって、建学の理念を実践する力、幅広い教養と専門知識、課題解決力と表現力、多様な他者を尊重し協働する力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（社会学）の学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性、多様性、協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文・社会科学領域の基礎的知識を積極的に修得し、社会における諸課題を発見する能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識、技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び社会学における専門知識や社会調査にかかわる技能・技術を体系的に身につけている。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行うことができる。

主体的な問題意識を持ち、社会学の専門知識を活かした解決策を見出すことができる。

他者と主体的に協働する能力と自らの考えを論理的かつ明確に伝えるプレゼンテーション能力と文章力を身につけている。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者

と協働して課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な人文・社会科学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの力を身につけることを目的とし、全学共通科目と専門教育科目の履修により、学生が多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように教育課程を編成する。

社会学専攻の科目の系統は、1年次に履修する全学共通科目の入門・導入科目等を基礎とした上で、育成目標となる力によって大きく3つに分類され、それぞれにおいて基礎から応用・発展までの科目を学年ごとに配置している。

- ①人間と社会を把握する力を育成する
- ②社会の実態を調査する力を育成する
- ③問題を発見し、解決する力を育成する

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。
- 2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。
ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。
ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。
- 3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。
- 4) 「保健体育科目」は、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
- 5) 「駒澤教養パスポート（Komazawa Liberal Arts Program）」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うことにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。
- 6) 「人間と社会を把握する力を育成する」科目には、社会学の基礎を学ぶ講義と演習科目（社

社会学概論、社会学の歴史、社会学の理論など)、社会学の応用・発展としての各論に相当する講義と演習科目、さらに社会学の隣接領域（人類学、心理学、社会福祉学、社会政策論など）に関する科目が含まれる。

- 7) 「社会の実態を調査する力を育成する」科目は、社会調査や統計、情報処理などの講義と演習・実習科目である。
- 8) 「問題を発見し、解決する力を育成する」科目は、社会参加実習や社会調査実習などのフィールドワークの実践、専門演習（ゼミ活動としてのフィールドワークの実践と卒業論文や演習レポートの執筆）が相当する。

社会学専攻における専門科目として設置された6)～8)の科目を基礎から応用まで学ぶことにより、社会学の体系的なリテラシーを習得し、自らの問題意識の発見と問題解決能力を体得することが可能となる。また、一般財団法人社会調査協会による「社会調査士」資格の取得も可能となる。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目・教養ゼミにおいては、探究型学修やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、リアクション・ペーパーなどの活用により、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目（ゼミ）では、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) 社会学専門演習については、事前に募集説明会やゼミ公開を実施し、担当教員による選抜を行っている。1つのゼミあたりの上限定員を設けて特定のゼミに学生が集中しないように配慮し、少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行っている。
- 5) 社会学専門演習Ⅲにおいては、自らの関心に基づいた研究テーマにより、四年間の集大成としての卒業論文もしくは演習レポートの執筆を必須としている。なお、卒業論文もしくは演習レポートの指導における専門性をより高めるために、専門演習ⅠbからⅡ、ⅡからⅢへは持ち上がりを基本としている。
- 6) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 7) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 8) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

科目群等		DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	各科目群のねらい
全学共通科目	宗教教育 科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	教養教育科目（人文・ 社会・自然・ライフデ ザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによつて、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。
	初年次教 育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア 教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	社会学基礎演習（導入 教育科目）		◎	○		専門分野で学ぶために必要な基礎的な知識と方法を身につける。
	各種専門講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	社会参加実習、社会調 査実習などの実習科目		○	◎	◎	専門分野の講義で修得した知識を基に、もしくは専門分野の講義との相乗効果のために、フィールドワークや社会調査を行う。
	統計学基礎演習、社会 統計学演習、質的調査 法演習、講読演習、社 会学専門演習などの演 習科目		○	◎	○	少人数クラスで担当教員およびメンバーと密なコミュニケーションを取り、議論や発表、演習レポートの執筆を行う。
	卒業論文	○	◎	◎	◎	学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学科社会学専攻は、駒澤大学、文学部及び社会学科入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 社会学科社会学専攻の求める学生像

（AP1） 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。さらには、社会学科社会学専攻での学びを主体的な自己形成につなげ、学んだ知識や経験を社会に出てから活用したいという強い意欲をもっている。

（AP2） 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の基礎的な学力を身につけている。特に「国語総合」、「英語」の基礎的な学力を身につけている。さらには、情報通信技術を使いこなし、データを読み解くことができる情報リテラシーを体得している。

（AP3） 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

現代社会に強い関心があり、社会をより良くしていきたいという願いを持っており、広く社会に目を向け、幅広い知識を養おうとする態度を身につけている。そして、現代社会における諸現象、問題についての様々な情報に基づいて社会の仕組みを理解しようと努めるとともに、自ら考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明する基本的な能力を身につけている。

（AP4） 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

多様な文化・価値観の相違を認識し、他者とのかかわりあいの中で他者を尊重し、主体的に協働できるコミュニケーション能力と意欲を身につけている。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- ・高等学校で学修する教科・科目を幅広く修得する。特に、英語を中心とした外国語 4 技能の運用能力や国語の基礎能力を身につける
- ・評論などに触れて読解力を高めるとともに文章を書く機会を増やし、論理的な文章の読み書きに努める
- ・国内外のニュースに関心をもって新聞や書籍から情報収集し、社会的事象の背後にある社会構造にも関心をもつ
- ・社会的なテーマについての課題発見・分析に努めるほか、視野を広げて多様な文化・価値観を尊重する姿勢を身につける
- ・社会貢献、社会参加活動に積極的に参加し、多様な他者と協働して目標を達成、もしくは課題解決に取り組み、自身の考えを発表する機会をもつ

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
総合型選抜	自己推薦選抜（総合評価型）	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	◎	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	自己推薦選抜（特性評価型）	出願書類	○	◎	○	○	
面接・口頭試問		◎	○	◎	◎		
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	◎		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題	○	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
事前課題			◎	○			
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		英語		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
外国人留学生選	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文	

	抜	日本留学試験（成績）		○			化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等		◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等		◎	◎	◎	
		英語		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	

文学部 社会学科 社会福祉学専攻（3つのポリシー）

教育の理念

社会学科社会福祉学専攻は、建学の理念のもと、幅広い教養と福祉の専門知識・技術、ならびに平和・人権・社会正義を基本とする倫理観を体得し、A.マーシャルが説いた“Cool heads but warm hearts.”（「冷静な頭脳と暖かい心」）をもって人間社会の発展に貢献できる人材を育成する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学科社会福祉学専攻は、福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための基本的で幅広い知識と専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応できる社会人・職業人を育成することを目的とし、以上に述べた事項を達成するために必要な科目を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）を授与する。

（DP1） 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文・社会科学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2） 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び社会福祉に関する知識・研究方法を体系的に身につけている。

（DP3） 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

社会福祉学における専門的知識・技術やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。また、文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4） 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。また、リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な人文・社会科学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
学位授与の方針 卒業認定・	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会福祉学専攻は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、①社会福祉学の基礎知識の獲得を目指すための理論教育、②社会福祉実践の基礎となる方法論教育、③社会福祉の援助技術の獲得に向けた演習・実習科目（学外の配属実習を含む）、④主体的な課題発見能力と問題解決能力を獲得させるための少人数による演習科目とゼミ論・卒業論文の執筆、⑤将来の職業選択を踏まえたキャリア関連科目、等を体系的に配置している。特に、卒業後の希望進路に応じた履修モデル（福祉専門職系、福祉教養系その他）を基に、演習を中心とした段階的かつ系統だった指導カリキュラムを通じて、学生の進路希望や適性に応じたキャリア指導を展開する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 福祉分野の幅広い知識を修得する科目として、入門的科目（社会福祉の原理と政策、医学概論、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、介護概論、介護技術など）と応用的科目（児童・家庭福祉、障害者福祉、高齢者福祉、社会保障、貧困に対する支援、地域福祉と包括的支援体制、社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴなど）を配置している。
- 2) 福祉分野の調査・分析力を修得する科目として、情報処理論、社会福祉調査の基礎、社会福祉基礎演習、社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱなどを配置している。

- 3) キャリアに関する専門科目を配置し、福祉専門職志向の学生は社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目（ソーシャルワーク実習A・B、精神保健福祉実習A・Bを含む）を通じて専門職としての技能を体得する。また福祉を教養として学びたい学生は、キャリア発達演習を通じて自らのキャリアをデザインしていく。

2. 教育方法

- 1) 講義科目においては、eラーニングシステム やリアクション・ペーパーの積極的な活用を図るとともに、学生による授業アンケートの結果をふまえた授業改善などによって学習効果を高める工夫を常に心がけている。演習・実習科目においては、各種のアクティブ・ラーニングの技法を導入し、学生との双方向の授業を展開して学生の主体的な学びの環境を整えている。
- 2) 必修科目として設置されている演習科目（ヒューマンサービス演習（1年次）・社会福祉基礎演習（2年次）・社会福祉専門演習Ⅰ（3年次）・社会福祉専門演習Ⅱ（4年次））では、小集団でのフィールドワークや体験型学習による問題意識の形成、文献研究等による研究の進展、プレゼンテーションツールを活用した多様な研究発表と議論を学年進行に応じて段階的に実施することで学生の能動的学習を促進させている。特に、専門演習では学生の2年次までの学習成果を踏まえて、各自の興味・関心に沿った研究テーマをもとに主体的にゼミを選択し、少人数による専門性の高い研究指導の機会を確保している。
- 3) 専門実習（ソーシャルワーク実習A・B、精神保健福祉実習A・B）は、学生の適性に応じて個別調整と指導を行っている。またキャリア発達演習では、さまざまなキャリア開発教材を用いて社会人基礎力を十分に身につけられるようにしている。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○		○	◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎	○	○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目	○	◎			専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	実習科目			◎	◎	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。	
	演習科目		◎	◎	◎	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	
	卒業論文・卒業研究・資格試験など			○	◎		4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学科社会福祉学専攻は、駒澤大学、文学部及び社会学科入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 社会学科社会福祉学専攻が求める学生像

（AP1） 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

建学の理念を理解するとともに、現在の福祉社会に関する関心を持っていること。

（AP2） 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校段階までの教育内容を幅広く修得しているとともに情報リテラシーを習得していること。

（AP3） 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

現在の福祉社会に関する問題意識に基づき、主体的・積極的に学びを深めるとともに、学習成果を社会に還元する意欲を持っていること。

（AP4） 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

多様な文化・価値観の違いや福祉倫理を理解し、他者と協働していく意欲を持っていること。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- ・ 社会に対する理解を深めるために、ニュース番組の視聴や新聞を読む習慣を身につけておく
- ・ 読書習慣を身につけ、常に問題意識を持つことや、論理的思考を磨いておく
- ・ 支援活動や社会的活動（ボランティア活動）に主体的・積極的に参加し、その成果や感想をまとめ発表しておく
- ・ 高齢者、障害者、子ども、外国人など、多様な人々との交流を深めておく

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
総合型選抜	自己推薦選抜 (総合評価型)	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文	○		◎		
		面接・口頭試問	○	○	○	○	
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	○	○	○	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	◎		○	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	
事前課題			◎	○			
社会人特別選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	○		◎		
		外国語等		◎			
		面接・口頭試問	○	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題	○		◎		
		面接・口頭試問	○	○	○	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
		日本留学試験(成績)		◎			
小論文等			○	◎			

		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	る。
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	○		◎		
		英語		◎			
		面接・口頭試問	○	○	◎	◎	